

指導資料

 鹿児島県総合教育センター

国語 第 126 号

—中学校，特別支援学校対象—
平成 25 年 4 月発行

論理的な思考力を育成する中学校国語科学習指導法の工夫 —「基礎・基本」定着度調査を踏まえて—

学習指導要領では「B 書くこと」に，記述や推敲に関する指導事項を設け，記述の仕方を工夫することや読みやすく分かりやすい文章にするために推敲することを示している。

しかし，ここ数年の「基礎・基本」定着度調査の結果をみると，根拠に基づく説得力のある論理的で分かりやすい文章を記述したり推敲したりする能力に課題があることが明らかになっている。

そこで本稿では，自己の意見や主張を論理的かつ的確に表現する能力を育成するために，言語活動をいかに効果的に取り入れるかという視点で，学習指導法改善の方向性について述べる。

1 「基礎・基本」定着度調査結果から見える中学校国語科における課題

平成 21 年度からの 3 年間，第 1 学年，第 2 学年ともに，「書くこと」の領域である「記述・推敲」に関する内容について，平均通過率が低くなっている。

この結果を受け県教育委員会は，平成 21 年度から平成 23 年度の『「基礎・基本」定着度調査結果（概要）」で，課題となる能力を，次のように具体的に示している。

H21【中 1】 「まず」「はじめに」や「次に」等，順序を表す言葉を使って説明や報告をする能力

【中 2】 必要な情報を取り出して記述する能力

H22【中 1】 図・表(地図)を用いて分かりやすい説明の文章を記述する能力

【中 2】 自分の立場を明確にして文章の構成を工夫する能力や，事実や意見が相手に効果的に伝わるように，根拠となる事実を引用して，自分の考えを記述する能力

H23【中 1】 決めた立場に立って，理由や目的を明確にして記述する能力

【中 2】 事実や意見が相手に効果的に伝わるように，報告文から根拠となる事実を取り上げて，自分の考えを記述する能力

このことから，一貫した論旨を筋道立てて組み立てることができる，論理的思考力育成の必要性が見えてくる。この課題解決のためには，「記述・推敲」に関する言語活動を生徒の実態に応じて積極的に取り入れていくことが重要であると考える。

2 問題解決のために必要となる論理的な思考力 —問題例から—

「記述・推敲」に関する内容の問題はどのような論理的思考によって，解決へと至るのであろうか。このことを，平成 23 年度

の問題を例に考える。

- (1) 根拠を示して自分の考えを明らかにすることを旨とした問題

平成 23 年度問題 〈中 1 国語〉 5

小説「カレーライス」を二つの方法でまとめた読書記録の内容を比較し、あなたならどちらの方法でまとめるか、理由や目的を挙げて、自分の考えを述べる問題。

「カレーライス」を読んで
夏休みに重松清の「カレーライス」を読んだ。小学校のとき、教科書で学んだことを思い出した。短編集のうちの「一編」であったが、おもしろくて、日でも読めた。

登場人物は、父、母「ぼく」で、家族中心の話だ。一番印象に残った場面は、書かないでいる「ぼく」が、お父さんのために中卒の「カレーライス」を作ったところだ。お父さんが「中卒」「成長」を喜んでいて、お父さんが「ぼく」もうれしくなってきた。自分が成長していることを伝えられてうれしかったのかと思った。

「球が速くなって、手が痛い」とうれしそうに言われたことがある。この小説を読んで、「ぼく」と同じような気持ちになったことを思い出した。

田中くんの読書の記録
次は、小説「カレーライス」を読んだ中学校一年生の田中くんと小川くんの読書の記録です。二人の記録を読んで、あとの問いに答えなさい。



小川くんの読書の記録
作品名 「カレーライス」
著者 重松 清
出版社・出版年月 文藝春秋・二〇〇七年七月
読み終えた日 二〇一一年七月二三日
主な登場人物 父、母、ぼく
あらすじ けんかをたまにまわったお父さん（ウェイク）。自分の成長を「中卒の「カレーライス」を作ること」で伝えたい「ぼく」と、お父さんの様子を見て、
○「一番」
でも、そこが、ひろし「中卒」なのかあ。そうかそうか。うれしそうに何だかうなずくお父さんを見て、いんなんか（こら）まうれしなつきた。
○一言感想 わたし、父親とのキャッチボールを思い出して、ぼくの気持ちに共感できた。



【問 3】

「田中くんの読書の記録」と「小川くんの読書の記録」を比べて、あなたなら二人のどちらの書き方で読書の記録をまとめようと考えるか。次の条件にしたがって書け。

- ① 第一文には、あなたが二人のどちらの書き方で読書の記録をまとめようと考えたかを書くこと。
- ② 第二文以降には、あなたが選んだ書き方でまとめようとした理由や目的を書くこと。
- ③ 原稿用紙の使い方～略～

この問題では、二つの読書記録について、それぞれの目的や意図を理解した上で、よさや利点を根拠として挙げ、記述する能力が求められる。

第一文では、自分の考えを示すために、例えば「わたしは、〇〇くんの書き方でまとめようと考えた。」と主述を整え、明確に示す必要がある。

第二文では、自分の考えの基となる理由や目的が明確に書かれていなければならない。その際、二人の「読書の記録」

の記述の違いに注目する必要があることを理解させたい。例えば、田中くんの読書の記録は、自分の体験を踏まえた主観的、情緒的な感想文に近いものであるが、小川くんの読書の記録は、事実や事象の客観的な伝達を中心にしており、報告文に近いと言える。

したがって、文種による目的の違いを根拠として、「なぜなら〇〇からだ。」の形で論理的に記述することが求められている。

- (2) 説明や具体例を示して、相手に効果的に伝えることを旨とした問題

平成 23 年度問題 〈中 2 国語〉 5

中学生が書いた「外来語」に関する報告分を読み、外来語の使用に関する自分の立場を明確にして、根拠に基づいた自分の考えを記述する問題。

1 はじめに（動機・目的）

以前テレビを見ていたとき「私はあの映画監督をリスペクトしているんです。」と言っているのを見て、最近では難しい外来語を使うことが増えていると感じた。『“マニフェスト”』『“アセスメント”』など一般的に使われている言葉でも意味がわかりにくいものも多い。

確かに、外来語を使うことで表現しやすいこともある。しかし、わかりにくい表現も増えているのではないだろうか。そこで、外来語の使用についてどのように使うのが適切なかを調べようと考えました。

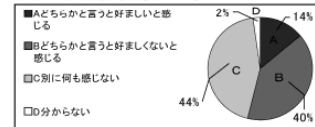
※ 1…導読する ※ 2…宣言（書）、公約 ※ 3…評価、否定

2 調査結果（分かった事実）

インターネットで検索した結果、文化庁の「平成19年度 国語に関する世論調査」に外来語の使用に関するアンケートがあることが分かった。次はその一部を図や表にまとめたものである。

(1) 外来語の使用を好ましく感じるかどうかについて

（グラフ1）外来語の使用を好ましく感じるかどうか



(2) 外来語の使用を好ましい・好ましくないと感じる理由（複数回答）について

（グラフ2）外来語の使用を好ましいと感じる理由

理由	割合 (%)
A 日本語の本来の良さが失われるから	55.6
B カタカナ語は分かりにくいから	55.5
C 言葉が乱れて日本文化が壊れてしまうから	35.0
D 年齢の良さを追っているようだから	27.6
E カタカナ語は嫌いだから	3.2

3 結果についての考察

グラフ1から（ ）

その理由を裏1で見ると、外来語の使用を好ましくないと感じる理由としては、「A 日本語の本来の良さが失われるから」、「B カタカナ語は分かりにくいから」が共に55%を超えている。日本語がもつ微妙な表現を大切にしたいと思ったり、外来語をわかりにくいと感じたりする人がいるのも確かである。一方で、グラフ2を見ると、外来語の使用を好ましいと感じる理由は「A カタカナ語でなければ表せない物事があるから」が66%と最も多い。情報化社会により外来語の必要性が高まった結果かもしれない。

【問 4】

この報告文を読みながら、西さんと東さんは、外来語の使用について次のように話している。

西さん わたしは、外来語をなるべく使わないようにした方がいいと思うわ。
東さん わたしは、外来語を使ってもかまわないと思うの。

あなたは西さん、東さんのどちらの立場の意見を支持するか。あなたが支持する人の名前を□に書き、そのように考える理由を「なぜなら」で書き始め、条件にしたがって書け。

〈条件〉

- ① 二段落で構成すること。
- ② 一段落目には、理由を、報告文にある表やグラフ及び考察の内容を参考に書くこと。
- ③ 第二段落は「例えば」で書き始め、外来語の具体例を挙げて説明すること。
- ④ 原稿用紙の使い方～略～

この問題では、自分の考えがより効果的に伝わるような、引用や具体例の用い方が問われている。あらかじめ設定された条件により、初めに自分の立場を述べる頭括型の文章構成となることを踏まえ、その立場を支える根拠を報告文の図表等から読み取り、更に自分の意見が効果的に説得力をもって伝わるように具体例を加えて記述しなければならない。

具体的には、第一段落では「なぜなら」に続く形で、自分の立場に沿った理由を図表や考察の内容を参考に記述する。その際、文末が「〇〇からだ。」となるように書き始めの語句と呼応させる必要がある。

第二段落では、「例えば」で書き始めるという条件に合わせ、自分の考えに沿うような経験や客観的事実を想起し、自分の考えの根拠となるように表現を工夫することが求められている。

3 論理的な思考力を育成する指導法改善の方向性

(1) 論理的な表現に必要な基礎的能力

課題の解決に向けて思考、判断したことを論理的な構成によって書くためには、先述のように、自分の考えをより明確に示すために根拠を明らかにしたり、

相手に効果的に伝えるために説明や具体例を用いたりすることが大切である。

また、誰が（主体）、誰に（相手）、何を（内容）、何のために（目的）、どのように（構成・記述）伝えるのかという目的と意図を明確にすることも大切である。そのためには、論理的な表現の基礎的な能力である、事実と意見の区別、全体と部分、中心部分と付加的部分との関係を明確にし、論理に一貫性をもたせ、筋道をはっきりさせて書かせることが大切になる。さらに、課題や立場に応じて適切な情報を取捨選択するとともに、自分の経験に根ざした情報と合わせて再構成する能力を育成することも大切である。

(2) 言語活動を取り入れる視点

記述と推敲に関する言語能力は、適切な言語活動によって身に付けさせなければならない。学習指導要領には、先の二つの問題に関連する言語活動例として「関心のある芸術的な作品などについて、鑑賞したことを文章に書くこと。」

（第1学年）、「多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。」（第2学年）などが挙げられている。生徒の実態把握や教材分析、資料・教具等の選定により、最適な言語活動を具体化し、指導計画を作成したい。

4 言語活動を効果的に取り入れた、論理的な思考力を育成する学習指導の例

中1国語の設問に関連して、自分の考えを理由や目的を明確にして書く能力や、事

実や意見が効果的に伝わるように書く能力を育成するために、「鑑賞文を書く」という言語活動を設定した。下に示すのは、推敲や交流の場面を重視した、第1学年の

教科書（三省堂）に掲載されている「根拠を明らかにして自分の気持ちを伝える～『鑑賞文を書こう』～」という単元における指導計画例である。

単元の目標 (1) 書いた文章を互いに読み合い、交流することで、自分の表現をよりよいものに高めようとしている。(国語への関心・意欲・態度) (2) 学習過程の各段階のねらいに即して鑑賞文を書くことができる。(書く能力) (3) 作品のよさを書き表すために、表現技法を必要に応じて適切に用いている。(言語についての知識・理解・技能)		
時	主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点 ※は「論理的な思考力」を促す手立て
1	1 鑑賞文について知る。 2 単元の学習課題を設定する。 郷土出身の画家の作品の鑑賞文を作成する。 3 郷土出身の画家の作品から好きな作品の一つを選びその根拠を書く。	※ 鹿児島ベーシック1年国語P22「事実と意見の書き分け」に関する問題に取り組ませることで、伝えたいことがはっきりと伝わるような文頭や文末表現の工夫の仕方を習得させる。 ・ 教科書に記載されている鑑賞文の例を読み、鑑賞文について理解させる。 ※ その作品を選んだ理由を、根拠を明らかにして考えさせる。
2	4 作者や作品ができた時代や背景等について取材をする。 ・ パソコン室や図書室で調べ学習をする。	・ 図書室の本やインターネット、美術資料集等を活用させる。 ※ 材料を集めさせながら、課題や条件に応じて取捨選択させ、自分の考えをまとめながら書く内容を決めさせる。
3	5 鑑賞文の構成を考える。	・ 四段落で構成させる。 ※ 「作品の全体像」「感じたこととその理由」「作者や作品に関すること」「まとめ」の順で記述させることで、段落の役割を考えさせ、伝えたいことが明確になるような論の構成を工夫させる。 ・ 記述欄の下部に評価（「内容・表現」「構成・表記」「よかったところや改善点」）を記入できるワークシートを準備する。 ※ 事実と自分が感じたこと、考えたこととがしっかりと書き分けられているか、また、それらに関連付けて書いているか意識させる。 ・ 情報の選び方や文章構成、文体等の良い点や改善点等について、観点に沿って相互評価させる。
4	6 鑑賞文①を400字で作成する。	
4	7 グループで交流会Ⅰを実施する。 ・ 鑑賞文Ⅰを互いに読み合い、相互評価する。	
5	8 交流を生かした鑑賞文Ⅱを作成する。	
5	9 学級全体で交流会Ⅱを実施する。 ・ 鑑賞文Ⅱを互いに読み合い、相互評価する。 ・ 評価を参考に改善点を考える。	
6	10 交流を生かした鑑賞文Ⅲ（清書）を作成する。 11 単元を振り返って自己評価を行う。	・ 交流したことを生かして、自分の文章のどこを改善すればいいか考えさせる。

この学習活動は、書き上げた作品の交流会をグループと学級全体で二度繰り返しながら推敲していく過程に特徴がある。鑑賞文の下部に相互評価欄を設けたワークシートを工夫し、評価の観点に沿って改善点が指摘できるようにしている。また、推敲を繰り返すことで論理的な思

考や表現の高まりが可視化され、指導と評価に活用できる。

このように「基礎・基本」定着度調査の分析から、身に付けさせたい言語能力の焦点化を図り、効果的な言語活動を具体化して学習指導法の改善につなげたい。

—参考文献—
平成23年度「基礎・基本」定着度調査結果（概要）
鹿児島県教育委員会

（教科教育研修課）